

令和元年度 第1回 新潟市白根地区公民館運営審議会 議事概要

日 時： 令和元年7月30日（火） 午後2時00分～4時20分
場 所： 新潟市白根学習館（白根地区公民館） ルーム1・2
出席者： 新潟市白根地区公民館運営審議会 浅間委員、栗田委員、高橋委員、田中委員、
富井委員、野本委員、本間委員、丸山委員、山崎委員、吉田委員
事務局： 白根地区公民館長和田、味方地区公民館長小松、月潟地区公民館長川又、白根
地区公民館古川、同館野崎、同館土田、同館高森、同館関口、同館星野、同館
渡辺、同館庭山、味方地区公民館笹川、月潟地区公民館武田

- 1 開会
- 2 白根地区公民館長あいさつ
- 3 委員自己紹介
- 4 公民館職員自己紹介
- 5 議長・副議長選出
- 6 白根地区公民館運営審議会議長・副議長あいさつ
- 7 議事

(1) 平成30年度公民館事業報告について（事業評価）

（事務局） 平成30年度公民館事業報告をそれぞれ担当者から説明

（本間委員） 白根地区公民館の「楽しい将棋講座」参加者もありプロの棋士を呼んだり、全小学校に案内を出したら参加者が集まった。将棋が大好きな子どもにとってはとてもいい講座、ぜひ続けてもらいたい。総合評価が「B」になっているのはなぜか？ぜひ「A」にして事業拡大してもらい続けていく方向でお願いしたい。

（和田館長） 小学校の子供たちを対象にした事業で、小学校の校長先生などから協力を得ながら公民館の活動をさせて頂いている。全校配布のチラシの効果もあり人も集まりました。評価「B」につきましては 回数を増やすことも考えられるのですが、藤井七段など様々なところで話題性が高く将棋ブームであり、令和元年に向けては、現状を維持しつつ開催します。

（富井委員） 将棋講座について、当児童館でも将棋で遊ぼうというイベントをやっている。どうゆうやり方で将棋をしているのか。24回実施ですが当児童館でも困っているのが、将棋をやれる子のレベルがあまりにも違いすぎる。将棋に興味があるが、まわり将棋・はさみ将棋などゲーム感覚での将棋しかできない子と、本将棋から詰め将棋まで本格的にできる子と集まってしまっている。私たちもやり方を悩んでいる。将棋講座はどのように開催されたかお話ししていただきたい。

（事務局：関口） 将棋の講座に関しては、日本将棋連盟の白根支部の4名が指導してくれている。大勢の子供たちもそれぞれレベルが違うので、4名の指導者がレベル分けをし、はじめての子と、あと半分くらいがリピーターです。

初めて入った子に関しては、指導者がどのくらいのレベルなのか指導者がグループ分けをしている。ルールがゼロからの子や大人と対局できる子が、レベル別に対戦をしたやり方を学んでいる。

初心者に関してはワンツーマンで大きな将棋盤を使って質問形式で指導している。あと、子ども同士が対局しながら行う。パソコンの将棋ゲームも活用し、大勢の子供たちが参加でしてくれるようになったので待ち時間が無くなり次々と対局ができる。上手に指導者がふりわけて、子供たちも楽しみながら将棋のレベルが上がっている。

(野本委員) 将棋講座ですが、市民大学でおとし、子供の方でも盛んなことから、大人でも募集をかけたらずか3名で、せっかく講師も決まって世話方も張り切っていたのに3名では開催できなかった。大人で将棋をやっているのは聞くが、市民大学で将棋があるのをわからないからなのか？どうしたらよかったのかと思いました。

(和田館長) 公民館も周知には苦労している。子どもであれば小学校にお願いして配布する、地域にも全戸回覧などで対応している。ターゲットがどこにいるのかという事です。今回は大人で南区全体であれば広報になるだろうと思います。若者に対してのお知らせは、SNSを使ってお知らせする方法もとっている。大人向け将棋大会は、2ページ目にあるNo.29の「南区親善囲碁・将棋大会」を開催している。先ほど申し上げた形で周知している。

(職員：高森) 参考程度になりますが、「南区親善囲碁・将棋大会」は毎年開催している大会で、今までは北部が中心で開催していたが参加者が年々少ないことから、北部の方から南区全体で周知するようになった。例年参加者が15名ほど、今年にかぎり20数名になった。大通囲碁同好会と白根北クラブという将棋の会の二つの団体に協力してもらった。周知を広げたことによってクラブに関係ない方が、例えば広報とか学習館のチラシをみて西蒲区からでも参加してもいいかと問い合わせがあったりした。参加者が少なかったら広報の地区を広げるなどした。チラシを各地域生活センター、イオンさんなど人が集まるところに置かせてもらった。一般の方でも目に留まるようにした。

(浅間委員) 事業の構造がわからないところがある。野本さんが関係している団体で市民大学がある。県でいいます学習センターのようなもので、市民大学とは市などが支援するとか補助金とか仕組みがあるのか、実行委員会など民間的に立ち上げてやっているのか、お聞かせください。

(事務局：古川) 野本委員に代わって説明します。しろね市民大学は学習館ができたときに前の公民館長が中心となりはじめた。市民の有志が集まり公民館は共催をしている。南区だよりで募集し、受付の窓口を学習館で行っている。例えば先ほどの将棋に関しては報償費を若干公民館より支出している。あとは市民大学の千円の運営費と、他にそれぞれの講座ごとに講座費がある。事業の運営は、運営委員の方が行っている。

- (浅間委員) 館を使う利用者の教室だというのが理由のひとつだという事？
- (事務局：古川) 部屋の手配を公民館が優先的にとって講座を開催して運営は市民大学でやっている。
- (浅間委員) それでここに出てこないという事。あともうひとつなのですが、文化協会とはどのような団体ですか。
- (高橋議長) 文化協会の会長をしているのが私です。市民の様々な自主グループの集まりが文化協会です。公民館から支援をもらってやっているものではなく、この地区全体で文化の振興について民間レベルで何をしたらいいのか公民館と協調しながら文化の振興に努めているのが文化協会です。
- (浅間委員) 例えばほかの市町村もみな同じのがあるって全国でピラミッドのようになっている？
- (高橋議長) そうではありません。このような組織もないところもあるし、行政から支援をもらっているところもある、それぞれの市町村によってまちまち。以前から学習館のような公民館が必要だねと言っていたところ、この学習館ができた。学習館に魂をいれるのに行政は行政で様々な事をやるが、民間レベルでやりたいことを自分たちでやろうと各団体があつまって事業展開やりましょうと立ち上げたのが文化協会。
- (吉田委員) 白根地区公民館の「臼井伝統芸能の継承」について 臼井にどのような伝統文化があって、どのように学んでいるのかを教えてください。私自身も味方地区の吉田家代々神楽という伝統芸能を行っています。後世に残そうと小学生に教えて一生懸命に練習しています。公民館で8月味方地区秋期大祭に向けて練習していますが、なかなか大変で公民館さんのほうでどのようなやっているのかお聞かせください。
- (事務局：土田) 「臼井伝統芸能の継承」について、具体的には右端の共催連携させてもらっている臼井棒踊り振興会の方から協力を頂き、会場は臼井中学校をお借りしています。臼井中学の全生徒を対象に臼井地区に伝わる棒踊りを教えてもらっています。目標といたしましては、毎年9月の臼井中学の体育祭での発表と10月の臼井地区祭り狸の婿入り行列での発表をしてもらっています。体育祭と地区の祭りの発表を目標にして、棒踊り振興会の方から講習会をもらっている。公民館でも地域の伝統芸能を継承してもらっている。
- (吉田委員) 対象が少年となっていますが、臼井中学の生徒さんを対象に棒踊りを継承してもらっているということですか
- (事務局：土田) はいそうです。
- (高橋議長) 校長先生（田中委員）、なにかありますか？
- (田中委員) 3. 4回棒踊り振興会の方々から来ていただいて細かい点まで指導いただいて子どもたちは練習して身に着けていく。実を言うと4回ぐらいでは覚えられない。2. 3年生は習熟しているので、新入生を対象に5時間ぐらい使って3年生が1年生を教えている。細かい所は専門家の方をお願いして修正してもらおう。本番は9月の体育祭で全員でおどる棒踊り

を目指している。毎年続いていると聞いています。

(吉田委員) 地域の伝統芸能の継承として中学生が練習して将来もどってくるのが理想の形。

(田中委員) 振興会の方もOBなのですが、卒業生がどのように振興会に参加しているか調査してない。若い人が教えに来てくれている状況、お祭りでは若い人が来てくれているが継続が継承にループしてない状況。

(吉田委員) やはり時間がかかると思う。味方の代々神楽も小学生が大人になって戻って会に入れば理想なのですが。

また、小学生からずっとやっていた男の子が高校生になって会にもどって今年の秋祭りで一人の舞でデビューできたと喜ばしいニュースもある、なかなか継承していくのは大変です。

(田中委員) 継承と言うか 小学校でかつて行っていた樽太鼓を、新しい曲目で練習すると聞いている。それを学校の中でやるのは無理なので、夜、地域の方が主体となって行う事を考えているようです。それが実現すれば学校の授業の中で行うものではないのでループしていくと思う。学校は教育活動で行うので、今度は興味のある子が地域の方たちと一緒に盛り上げていくことが出来る。これからの活動を注目している。もしそれが成功すれば棒踊りもそのような形で移行していければ、ますます隆盛を極めると思う。結局中学校では体育祭で終了となります。地域の母体の中で有志が若い人が集まりそして練習をして、もっと大きな舞台で発表できればそれが一つのきっかけになると考えている。臼井中学校でもっと発表の場をと考えているが、準備・指導・引率となると職員の手が必要となり、働き方改革が叫ばれている中、かなり厳しい状態になっている。

(高橋議長) 地域芸能と後継者の育成、伝統行事と学校の連携のありように関して今後の大きな課題となってくるのかと、今の話を聞いて思う。この件に関して公民館サイドでも今後のありようについてご検討いただきたい。

(本間委員) 二次元バーコードを使ったかんたん申込について、若い方から反応があったと報告があった。公民館のホームページで施設概要、使用料、アクセスの仕方などしか書いていない。ここに講座の案内を載せられないものか。私が見ているのが市のホームページだから無いのか。例えば3地区ある事業のなかで参加したい事業があつてすぐ申し込みが出来ればもっと広がる。今後40代50代もスマホができる世代。今後広がる可能性が高いと思った。

(高橋議長) 本間委員の話で、回覧とか全戸配布ではなくインターネットの活用を図っていくべきではないか。ホームページに各公民館の事業がタイムリーにわかれば公民館が今何を募集しているのか何を申し込めるのかすぐにわかるべきではないのかと、私も確認してこなかったが、今後どのように展開していくのかお聞かせください

(和田館長) 新潟市ホームページから公民館にたどり着くまでも一苦労する。事業の開催などは新着情報に載せている。市役所のホームページは階層が深

くなっていてそこまでたどり着くのも大変。ただ、このたびの白根ユースセミナーについては、チラシに二次元バーコードを掲載してそこからスマホで申込してもらったと聞いている。公民館をあまり使わない若者をどうやって引き込むか、いいやり方なのでこれからも活用していきたいと思う。今の指摘の通りもっとホームページで情報を、SNSの更新も含めて情報が遅くなっている所は反省するところ。どうすれば若者を引き込むかは勉強していかなければと私どもも思っている。

(本間委員) 白根地区公民館、味方地区公民館と入れればすぐに出てくる。でも公民館のホームページは施設概要などしかない。申込するのにわざわざ新潟市ホームページから、入らないと、公民館で何が行われていて、いつどんな事が行われているのかが検索しても出てこない。このような状況なので、もし新規事業などを周知できればもっと身近に公民館を感じてもらえると思う。利用者にアンケートなどを文書でもとるのだけではなく後日webで回答してもらうのもあり。今後はそれが可能になるのでは？アンケート結果もグラフなどすぐにできるとおもう。それを活用されたらいいのかと思う。

(高橋議長) 今のご指摘は、これからの公民館のありようを考えた時にWebでの利点をどんどん活用していく公民館でないといくからは対応しきれないのではとのご指摘だと思う、私もそう思う。

(浅間委員) 文芸みなみ風ですが、新聞でいろいろ言われて南区は中止で秋葉区は継続。グループを作るとか、どこかに入りたい、人と繋がりたい時など意外と公民館は役に立つ。「いろはの会」のきっかけは新聞に出た講座を受けて、うまい具合にできあがった。そのような講座で人とつながり、やりたかった事をやるのはあり。短歌俳句川柳など市民の皆様がやりたい講座などを、たとえば短歌の会はここには無いと思ったが、公民館がニーズをキャッチする仕組みなどはどうしているのか？

(和田館長) 文芸みなみ風は平成30年の発刊で最後となることは決定事項。廃刊決定に至っては北区のように最終号のような区切りが持てなかったことは残念。投稿する方々も高齢化、ほぼ投稿者も決まった方ばかり。このタイミングでの廃刊はやむを得ないといのご意見があった。

(浅間委員) 年寄りのニーズをキャッチしてもらいたい。いろいろやっているかと思うが、人が集まる事を考えて頭に隅に置いてもらいたい。インターネットなどお恥ずかしいがめんどくさい。公民館に足繁く通っている。

(高橋議長) 今のお話では高齢者の生きがい対策のために、短歌の集まりの開設はないのかとのご質問だったと私は思ったが。たとえば短歌とか。

(和田館長) そういった気運がたかまりニーズがキャッチできればそのような講座も開催できると思う。

(浅間委員) みなみ風が廃刊されたが、皆様がそのような事をおっしゃれば公民館でも支援することもあるか。

(高橋議長) ニーズがあれば検討してほしいということですね。

(野本委員) そのニーズはどのように得るのか？わたしもシニアなので古典講座があればいいねと話をしているが白根になくて残念だと、遠くまで足伸ばしている人もいます。市民大学でも1000円頂いているので、去年は薩摩琵琶をお呼びしたら部屋に入りきれない100名以上の人が集まった。どこでお聞きになったのかわからないが満員御礼で入れない人もいた。こんなに興味を持っている人がいると思った。その前は藤田先生と言って越後白根にかかわる話をお聞きしたら男性がわりと出てくれた。こうゆう事にも興味がある事がわかった。公民館ではニーズをどのように知ることが出来るのか。

(和田館長) 熱をもった方からこんな事をしたいという話を聞かせてもらいたいと思う。地域にはこのような熱を持った方がこんな形でこういう活動を媒体にして地域活性化を考えていて、こういう方から公民館に相談に来てもらえれば進め方も相談できる。私たちも事業等で地域に常日頃出かけて行って地域課題を聞かせてらっているのですんな中でもよろしいし、相談も受けたいと思っている。

(高橋議長) どれくらいのニーズがあったら、ニーズになるのか。こんな事業をやってくださいと公民館にお話しして、あぁいいですねと担当職員が言って募集しても、2～3人しか集まらないかもしれない。こういったことを公民館とやりたいといった場合、学習相談の意味合いからどんどん学習館や各公民館にこういった事をやりたい人が何人かいるけど、公民館とタイアップして事業展開できない？というやり方もある。もしくは市民大学講座は新潟県でも誇れる組織で、公民館と協調しながら市民レベルで自分たちが学びたいことを自分たちで運営されている。市民大学講座と一緒にやっていくなど、様々な方法があると思う。

みなみ風の件ですが、公民館と文化協会が協力しながらやってきた事業でした。文化協会が100%事業費を支出してやるのであれば、今後も続けられます。ですが、年間1団体1000円の会費で、運営している組織です。文芸みなみ風のような何十万円もかかるようなお金を文化協会だけではとても支出できない。北区もそうですし、秋葉区も南区もそうですが、ここ3区だけが区の文芸誌を出していた。それで新潟市の財政が非常に厳しいことから、令和元年に打ち切りの申し入れがあり、この事について十分に議論し、編集委員の方とも相談して、自分たちで出そうとした場合は学習館交流広場に一冊の原本を置いてコピーをしてお持ち帰りくださいとそんなものしかできないだろうと、そのほか様々な協議をしたが、最終的に継続を断念せざるを得ないという判断をさせて頂いた。執筆者や投稿者が非常に多い状況であれば、継続していかねばならないと思うが、決まった方しか投稿されていないし、投稿者数も減少してきている。編集委員の方々も涙を吞んでこれでやむなしと廃刊の結論に達した。

(浅間委員) 新聞報道を見た限りでも私もそれを想像していました。そのことは別

に、細かいことで申し訳ないですが、新潟県公民館大会があつて私も出席を希望していたのですが、ちょっと家庭の事情があつて遅れていった。その時の公民館大会の浅間なおみさんの I C T の人生 1 0 0 年時代の到来、I C T を中心とした社会のグローバル化云々。I C T って何の略だろうと、たまたま思ったものでそれだけです。

(事務局：古川) 以前は I T といつてインターネットテクノロジーとかさしていたのが最近になってから I C T に変わった。うちの新潟市の部署も I T 推進課から I C T 推進課に変わった。C がちょっとよくわからない。

(高橋議長) 情報通信技術とうたつてあります。I T と変わらない。

(2) 令和元年度新潟市公民館事業の基本方針について

(和田館長) 令和元年度新潟市公民館事業の基本方針について説明

(浅間委員) 新規事業で茶の間の学校がありますよね、これは南区の場合は他の区に比べたらなんか問題があるのでしょうか

(和田館長) 茶の間の学校につきましては、次の令和元年度の公民館事業計画及び実施状況のところで担当から具体的に説明させていただきます。それを踏まえてからでよろしいでしょうか

(3) 令和元年度公民館事業計画(案)について

(事務局) 白根地区公民館 → 味方地区公民館 → 月潟地区公民館の順で各館ごとに説明

質疑なし

(4) その他

(和田館長) 次年度からの南区の成人式のあり方について、進捗状況を報告します。初めて南区における成人式の状況を聞く、委員の皆さんもいらっしゃると思いますので、簡単にこれまでの経緯を説明します。

南区では、新潟市主催の「成人式」とは別に、南区独自に区が主催する「成人式」を開催してきました。

しかし、年々、参加者が減少し、近年 3 か年の出席率は 30% 台で推移していたことから、本年 5 月 3 日の開催を最後に、南区主催の成人式は終了することとしており、このことについては 2 月の区役所だよりのほか、6 月には新成人に宛てて、はがきでもお知らせしています。

また、はがきには、自分たちの成人式を自分たちで企画・運営する実行委員に名乗り出てほしい旨、募集しましたが、残念ながら応募はありませんでした。

このため、公民館としても、なんとか新成人と今後の南区における成人式の在り方について、意見交換の場を持ちたいと思い、区内の中学校を平成 26 年度卒業した代表幹事あてに、意見交換会の開催案内を作成し、先般、各中学校からご理解をいただき発送をしてもらいました。

なお、この発送にあたっては、白根第一中学校の西村校長先生のご理

解とご協力があり、スムーズに進めることができましたことを皆様にご報告したいと思います。

また、意見交換会は8月8日（木）19時から白根公民館で開催する予定になっています。

このたび、ターゲットを絞って南区6中学校25名の代表幹事に案内を発送していますが、いまのところ、問い合わせの連絡もなく正直、集まるのか不安もあります。

開催したとしても、この日をもって、次年度の成人式がどうなるか決まるとは考えていません。当然、同級生らとの意見集約も必要と思いますので、何度か彼らと意見交換会を実施しながら、方向性を見出していこうと考えています。

以上、経緯と進捗状況について報告しました。

（吉田委員） 先般の公民館の県大会に出席させていただきましたが、その中で色んなところでのPR活動の報告などあったのですが、その一つで私の認識不足もあるのでしょうか。刈羽村での発表があったのですが、刈羽村公民館では指定管理が運営しているようです。指定管理よというものは行政においては、いわゆる老人の皆さんの施設とかあるいは体育館系の施設とかそういったところの指定管理での運営でやられている所が浸透してきている。公民館が指定管理での運営をしているとびっくりしたのです。これからの時代でしょうか、そういったものが増えていくのでしょうか。指定管理を公民館の運営として使うと目的はなんなのか、メリットはどのようなだろうと若干疑問なのですが、お答えいただけるものであればお願いします。ちょっとびっくりしたものですから認識不足でしたので。

（和田館長） ご存じのとおり新潟市は非常に財政に関して困難を極めているのが現状でありまして、財源に関して大胆な改革をしていこうという方針を出しております。その中でいまご指摘のある公民館の運営の在り方というのもテーブルに乗っているというのも事実です。ご指摘の通り公民館という仕事をしていく中で指定管理がなじむものなのかと、そもそものところから始めなければならぬしその受け皿、それを受ける事業所があるのかということも検討しなければいけないと思います。今後その部分につきましても有識者の方々のご意見も求めながら進めていこうと思います。今のその方向ではないが、確かにそうした考え方はあります。

（吉田委員） 結局今のお話だといわゆる行政としての人件費の削減が第一だという事ですかね。

（和田館長） そういう観点もあると思います。

（吉田委員） ただ発表の段階で私の認識では、指定管理とは行政から委託を受けていくらで委託を受けてというようなことだと思うのだが、金額的な面は勘弁してくれと言っていました。

(川又館長) 指定管理者制っていうと一般的に言うとはどんな公的な事業でもおこりうることらしいのですが、今、図書館があちこちで指定管理されています。言われるように市長部局に移管したり、指定管理にしたりしている。経費削減もあるのでしょうか、もう一つは民間の活力の活用、こちらのほうが強調されているようです。今後の課題なのでしょう。課題として公民館としては、認識されておるようです。

(高橋議長) いい提言というか提案、情報提供して頂きありがとうございました。私この日は欠席させていただき公民館が指定管理者というのはすごいなと今聞いて、確かに刈羽村は「ラピカ」というおおきな公民館がありますので、その管理を含めてその指定管理をするメリットは業者にとってはあるのか、ソフト面ではどうなのか気がかりなところもないわけではない。そういったところで情報などありましたら次の時にでもお聞かせいただければ。うまくいっている面とかうまくいっていない面があると思いますし、皆さんやはり関心をお持ちの委員の方々も多いと思いますので、情報を寄せて頂ければありがたいなと思います。

(川又館長) 公民館の管理について、昨年度新しく公民館がシルバー人材センターの委託の見直しをして委員の皆さんからご意見を頂いて、利用者に不便が無いようであればシルバー人材センターの委託の内容を見直してもいいだろうとご意見いただき、味方地区公民館に関しては、この4月からその見直しにそって運営されている。それで月潟地区公民館のシルバー人材センターに委託について、やはり利用状況を実態把握しますととくに土曜日と日曜日は時間帯に利用が極端に少ないものです。その部分については予約の無い日については管理の見直しをすると一応この10月から味方地区公民館と同様に予約のないときは管理人を置かないという話を進めております。ほぼ調整がついており、それにより年間210万円の予算が約70万円減額する見通しになっていますので、委員の皆さんにご報告しておきます。

(高橋議長) 先回確かありました。それで特に土日も含めて利用者がいない中でシルバーの方に委託をしたいと、なにか問題ないですか。

(小松館長) 今年から予約がなく空いている日は、管理人を置かないようにした。ただし、平日の午前中は月・水・金と管理人を置いています。夜のコマは、土日祝日は置いてません。そこで予約があった時は臨時で管理人さんを入れるのですが、今までの状況では、問題なくいってますし臨時でお願いしたのが一回、二回あったかどうかぐらいで、特に利用者の皆様にはご不便をおかけしてないと思っています。

(高橋議長) 問題ないというのであれば時代のすう勢からしてやむを得ないのかなと思います。

指定管理者と違って貸館部分で、事業展開までやっている指定管理者とはちょっと違う意味合いの話で、刈羽の話は非常に興味深いなど、私も行っておけばよかったなと思うぐらい。図書館も指定管理でいいのか

など様々な議論があるのですが、逆に指定管理者がいろんなノウハウをもっているので事業展開も様々な角度から行うなど、多分、刈羽の事例が新潟県では初めてだと思うので皆さん関心をもって見ていると思う。その辺の情報を収集されて次回情報提供して頂ければありがたいと思います。

(司 会) 長時間のご審議、どうもありがとうございました。これもちまして、本日の新潟市白根地区公民館運営審議会を終了します。本日は大変ありがとうございました。

閉会